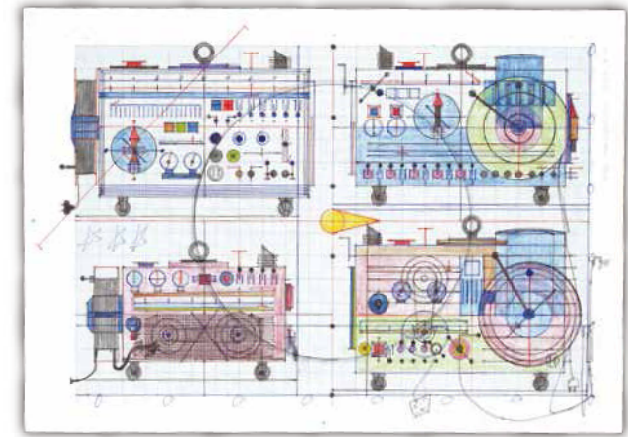


『船のクレーン(泥上げ)』制作年不詳
 グラフ用紙にボールペン、鉛筆、色鉛筆、水性マーカー、水性ペン
 210×297mm



『発電機』制作年不詳
 グラフ用紙にボールペン、鉛筆、色鉛筆、水性マーカー
 181×256mm



山崎 健一 Kenichi Yamazaki

1944年～ /新潟県在住

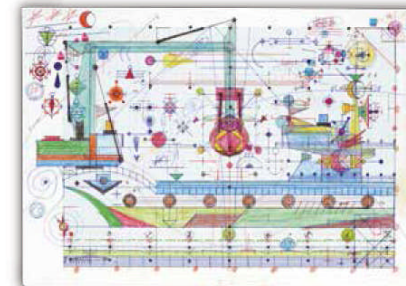
山崎さんは入院している精神科病院で、毎日規則正しいペースで絵を描いています。その絵はすべて方眼紙に描かれており、まるで図面のような感じです。コンパスの針で何目盛りか置きに穴を開け、それを目印にして線を引きます。ですから、紙の裏面は規則正しく並んだ無数の針穴で、まるでレース布のように美しい模様になっています。3,000枚近い作品を丁寧に一枚一枚、自分でファイルに整理しています。これらの絵はもう30年以上も、こうして描き続けられているのです。

彼はベッドサイドの引き出しに、専門家用の製図道具を持っています。立派な道具です。彼は誇らしげに「こういうものを描く時にはこの道具でキチンとした図面を描かねばならない。私は大事な仕事をしているのだから」と、何度も熱心に話してくれました。

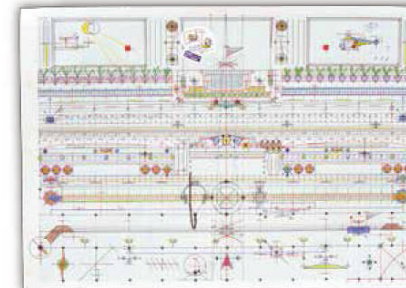
彼がくり返し描いているテーマは、若い頃出

稼ぎに行っていた土木建設の現場が元になっています。エンボやクレーンを搭載した大型船。また「コントロールセンター」と称する絵もあります。彼は「このスイッチを押すと、ヘリコプターが飛びたち、周りの安全を確かめるのだ」と言います。この絵には彼の架空の世界が詰め込まれているのです。

彼は絵の中の「世界」を生きており、そして自らセンター長として動かしてさえているのです。彼はどんな状況に居ても世界とつながろうとしています。その想像力を止めることは誰にもできないのです。



『クレーン船』制作年不詳
 グラフ用紙にボールペン、鉛筆、色鉛筆、水性マーカー、水性ペン、シール
 210×297mm



『タイプライターと野菜』制作年不詳
 グラフ用紙にボールペン、鉛筆、色鉛筆、水性マーカー、シール
 256×364mm

山崎 健一